

令和8年度 第1回 静岡県立浜北西高等学校 学校運営協議会 議事録

1 日時 令和8年6月22日（月）午後1時30分から午後3時30分まで

2 場所 静岡県立浜北西高等学校 会議室

3 出席者

○委員【敬称略】

梅林欽哉（元小学校・中学校管理職）、阿部卓也（静岡県議会議員）、
横田みどり（横田整形外科婦長）、金島徹（浜名区調整官、元西区副区長）、
松本幸範（浜北国際交流協会副会長）、中津川智美（常葉大学経営学部教授）＜欠席＞
森下晃行（農業起業家／TATSUJIN 株式会社）＜欠席＞

○学校関係者

野澤博文（校長）、寺田 心（副校長）、榎本好孝（教頭）、鈴木裕子（事務長）

4 議事

(1) 開会

(2) 授業参観（5時間目 14：15 まで）

(3) 学校運営協議会委員・学校関係者自己紹介

(4) 校長挨拶

- ・教員各々が強みを生かした教育活動、教職員集団の組織力・チームワークを高めること、教職員同士の人材育成（ベテランが若手から学ぶことも含めた相互育成）
- ・浜北西高校魅力化推進・創立50周年プロジェクトチームの設置

(5) 令和8年度学校経営計画（校長）

- ・「自己指導力の育成」を追加

(6) 二大特別事業（補助金）について（副校長）

- ・「DXハイスクール事業」（東京の先進企業や大学への視察、パソコンの組み立て実習、VRヘッドセットの導入などを通じ、デジタル技術に強い人材の育成）
- ・「行きたい学校づくり推進事業」（地域課題を自ら見付け解決策を提案する探究学習の推進）

(7) 部活動等近況報告（教頭）

- ・陸上競技部 男子三段跳で全国大会出場

(8) 協議（各委員からの本校に対する助言等）

- ・浜北西高校では、少子化に伴う県内の高校再編（西部地区で18校から13校程度への削減）という状況を受け、学校の存続と発展を目指して「魅力化推進」と「50周年プロジェクト」を進めている。40年以上の歴史を経て、母校のために動きたいという意欲的なOB、OGが増えており、資金面や活動面で協力を得たい。
- ・授業や学校生活で生徒や先生が楽しそうにしていることが最大の魅力であり、それをどう具体的に外部へアピールしていくかが課題である。
- ・「地域密着で地元を愛している。学校の雰囲気は穏やかで、安心して通わせられる」といった評判があり、生徒の温かい雰囲気は本校の特徴であり、大切にすべき点である。

- ・今年度から重点目標に加わった「自己指導力」という概念を、具体的にどう生徒に定着させ、その成果をどう見える化していくかがポイントとなる。
- ・浜北西高校の強みであるタイや台湾などとの国際交流をコンソーシアムなどを通じて更に活性化させ、マスコミ等も活用して宣伝すべきである。
- ・総合的な探究の時間において、最初の「課題作り」は非常に重要である。この段階から地域や専門家のアドバイスをより効果的に取り入れることが求められている。
- ・学校運営協議会、教職員、生徒の三者をスムーズに結び付ける担当者（コーディネーター）を置くことで、地域連携がより活性化するのはないか。
- ・50周年行事などが「大人たちの自己満足」にならないよう、現在の1年生（50周年時の3年生）をはじめとする生徒たちの意見や、「講演会で誰を呼びたいか」といった希望を反映させるとよい。
- ・過去の事例では、地元の経営者（女性経営者会など）が学生とグループ対話を行い、社会に出る上での疑問に答えるといった交流も行われてきた。こうしたメンター的な関わりを今後も模索していくことを期待している。
- ・台湾やタイとの国際交流やDXハイスクールの取り組みなど、特色ある活動を新聞などのマスコミに取り上げてもらうことで、生徒の活躍と自己指導力の発揮を社会に広く周知する。
- ・50周年を単なる記念行事で終わらせず、「次の50年」を地域とともに考え計画を立てることで、地域を支え、地域に支えられる学校としての特色を明確にしていきたい。

(9) 閉会